

特集

地域のよりどころ

「ふれあいの郷かあら山」を訪ねて

人口減少や高齢化が進むなかで、地域住民の参画によるまちづくりをめざして、旧高麗保育所を利用し設立された「ふれあいの郷かあら山」取材しました。

本町では、旧小学校区の10地区で、各集落から選出された委員で構成する「まちづくり地区会議」が、今後のまちづくりについて話し合いや活動を行ってきました。

そのなかで、最も早く地域自主組織を立ち上げた高麗地区を取り上げます。

谷野保人会長ほか執行部のみなさんに聞きました。

【議員】これまでの経過を教えてください。

【谷野会長】前身である「まちづくり高麗地区会議」では、平成23年6月の初会合以来、分科会など20回以上の会議を重ね、課題などのアンケート調査も行いました。

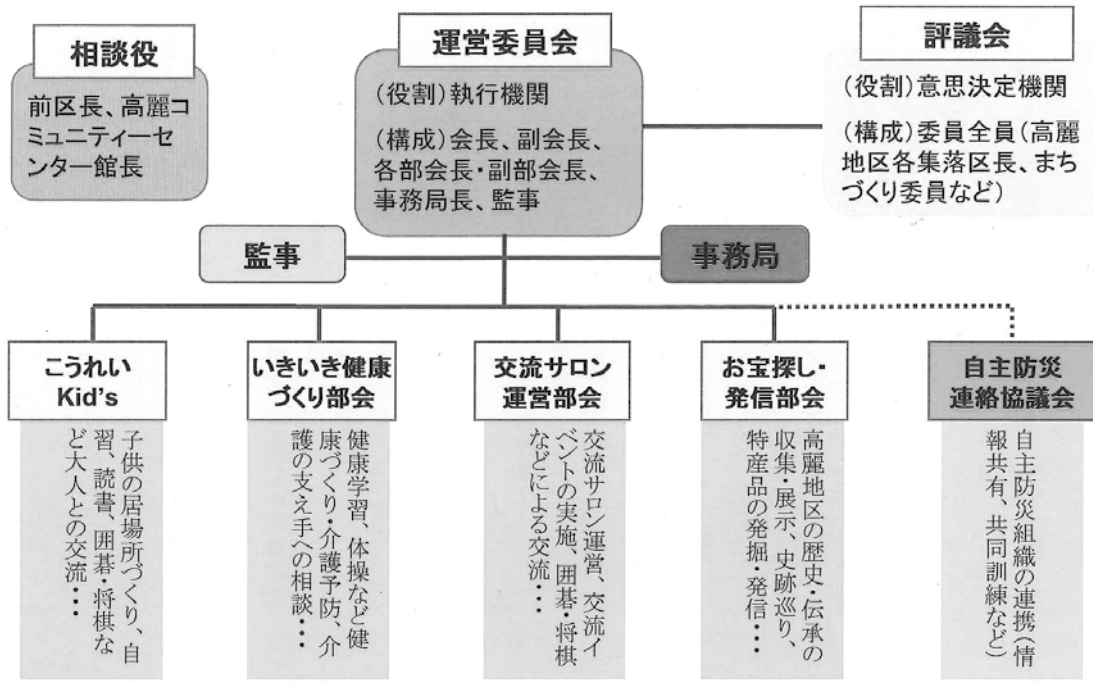
「集落の参加なくして地区の活性化なし」との認識のもと、平成24年夏には全集落に「出張座談会」として意見交換に出向きました。さらに、地区区長会とも2回話し合いました。

こうした取り組みを重ねるなか、高麗保育所が統合によって閉所となり、旧保育所を拠点とした地域づくりの検討に入り、平成24年12月に地域自主組織として設立しました。

【議員】組織の概要はどうなっていますか。

【田中委員】「評議会」で予算・決算・事業計画などの承認を

ふれあいの郷かあら山の組織



もろって、「運営委員会」で具体的な取り組みを検討し決定します。そして、実際の活動は

4つの「活動部会」が担っています。